



Sun Cluster 3.1 データサービス (DHCP 編)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.650-960-1300

Part No: 817-2844-01
2003 年 5 月, Revision A

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品に採用されているテクノロジーに関する知的財産権は Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) が保有しています。特に、これらの知的財産権には、ウェブサイト <http://www.sun.com/patents> にリスト表示されている米国特許、または米国および他の国へ出願中の特許が含まれている可能性があります。

本製品は、本製品やドキュメントの使用、コピー、配布、および逆コンパイルを規制するライセンス規定に従って配布されます。本製品のいかなる部分も、その形態および方法を問わず、Sun およびそのライセンサーの事前の書面による許可なく複製することを禁じます。フォントテクノロジーを含むサードパーティ製のソフトウェアの著作権およびライセンスは、Sun のサプライヤが保有しています。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、docs.sun.com、Answerbook、Answerbook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

ORACLE® は、Oracle Corporation の登録商標です。Netscape™ は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標もしくは登録商標です。Adobe® のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

連邦政府による取得: 市販ソフトウェア -- 米国政府機関による使用は、標準のライセンス条項に従うものとします。

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) で開発されたソフトウェアが含まれています。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Sun Cluster 3.1 Data Service for DHCP*

Part No: 817-1716-10

Revision A



030612@5943



目次

Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for DHCP の概要	6
Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画	6
構成に関する制限事項	6
構成に関する要件	7
DHCP のインストールと構成	10
▼ DHCP のインストールおよび構成方法	10
DHCP のインストールと構成の確認	11
▼ DHCP のインストールおよび構成の確認方法	12
Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール	12
▼ Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール方法	12
Sun Cluster HA for DHCP の登録と構成	13
▼ Sun Cluster HA for DHCP の登録および構成方法	13
Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の確認	15
▼ Sun Cluster HA for DHCP のインストールおよび構成の確認方法	15
Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターの概要	15
リソースプロパティ	16
検証アルゴリズムと機能	16
Sun Cluster HA for DHCP のデバッグ	16
▼ Sun Cluster HA for DHCP のデバッグを有効にする方法	16

Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成

Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成

表 1-1 に、Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行ってください。

表 1-1 作業マップ: Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成

タスク	参照箇所
インストールを計画する	6 ページの「Sun Cluster HA for DHCP の概要」 6 ページの「Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画」
DHCP をインストールして構成する	10 ページの「DHCP のインストールおよび構成方法」
インストールと構成を確認する	12 ページの「DHCP のインストールおよび構成の確認方法」
Sun Cluster HA for DHCP パッケージをインストールする	12 ページの「Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール方法」
Sun Cluster HA for DHCP を登録して構成する	13 ページの「Sun Cluster HA for DHCP の登録および構成方法」
Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成を確認する	15 ページの「Sun Cluster HA for DHCP のインストールおよび構成の確認方法」
Sun Cluster HA for DHCP の障害モニターを理解する	15 ページの「Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターの概要」

表 1-1 作業マップ: Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成 (続き)

タスク	参照箇所
Sun Cluster HA for DHCP をデバッグする	16 ページの「Sun Cluster HA for DHCP のデバッグを有効にする方法」

Sun Cluster HA for DHCP の概要

Solaris DHCP は、DHCP クライアントに動的 TCP/IP 構成を提供します。Sun Cluster HA for DHCP データサービスは Solaris 8/9 にバンドルされている DHCP ソフトウェアを使用します。DHCP の詳細は、dhcp(4) のマニュアルページを参照してください。

Sun Cluster HA for DHCP データサービスのメカニズムによって、DHCP サービスの順序正しい起動、停止、障害モニター、自動フェイルオーバーを実行できます。次の DHCP コンポーネントは、Sun Cluster HA for DHCP データサービスによって保護されます。

表 1-2 コンポーネントの保護

コンポーネント	DHCP サーバーコンポーネントを保護するデータサービス
DHCP サーバー	Sun Cluster HA for DHCP

Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画について説明します。

構成に関する制限事項



注意 - 次の制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す制限事項を考慮して、Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画を行ってください。ここでは、Sun Cluster HA for DHCP にのみ適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、*Sun Cluster Release Notes* を参照してください。

- **Sun Cluster HA for DHCP** データサービスは、フェイルオーバーサービスとしてのみ構成できます – DHCP はスケーラブルなサービスとしては運用できないため、Sun Cluster HA for DHCP データサービスは、フェイルオーバーサービスとして運用するようにのみ構成できます。
- **DHCP サーバー** – DHCP は、中継ホストとしてではなく、DHCP サーバーとして運用しなければなりません。
- 単一の **DHCP** インスタンス – Sun Cluster 内で構成できる DHCP リソースは 1 つだけです。
- **DHCP ネットワークテーブル** – DHCP のネットワークテーブルは、テキストファイルまたはバイナリファイルにすることができます。また、フェイルオーバーファイルシステム (FFS) または広域ファイルシステム (GFS) としてマウントできません。

注 – 広域ファイルシステムをマウントする場合は /global という接頭辞を指定し、フェイルオーバーファイルシステムをマウントする場合は /local という接頭辞を指定するようにしてください。必須ではありませんが、こうするのが最も好都合です。

構成に関する要件



注意 – 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す要件に従って、Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の計画を行ってください。これらの要件は、Sun Cluster HA for DHCP にのみ適用されます。Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。

- **DHCP のコンポーネントと依存関係** – Sun Cluster HA for DHCP データサービスは、DHCP コンポーネントを保護するように構成できます。このコンポーネントと依存関係について、簡単に説明します。

表 1-3 DHCP と依存関係 (→ 記号で示す)

コンポーネント	説明
DHCP サーバー (Mandatory)	→ SUNW.HAStoragePlus リソース SUNW.HAStoragePlus リソースは、DHCP のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは DHCP が起動しないようにします。

DHCP コンポーネントは、 /opt/SUNWscdhc/util に構成/登録ファイルがあります。これらのファイルによって、Sun Cluster に DHCP コンポーネントを登録できます。

例 1-1 Sun Cluster 用の DHCP 構成/登録ファイル

```
# cd /opt/SUNWscdhc
#
# ls -l util/*
total 6
-rwxr-xr-x  1 root    sys      1094 Dec 20 14:44 dhcp_config
-rwxr-xr-x  1 root    sys       514 Dec 20 14:44 dhcp_register
#
# more util/*
:::::::::::::
util/dhcp_config
:::::::::::::
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# This file will be sourced in by dhcp_register and the parameters
# listed below will be used.
#
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#     RS - name of the resource for the application
#     RG - name of the resource group containing RS
#     PORT - name of any port number
#     LH - name of the LogicalHostname SC resource
#     NETWORK - name of the DHCP Network, however comprised of following
#               <network>@<nafo_or_nodename>@<node number>
#     HAS_RS - name of the DHCP HAStoragePlus SC resource
#
#     The following two examples illustrate sample parameters
#     for DHCP on a 2 node cluster (tequila/sunrise)
#
#     Sun Cluster 3.0 using nafo
#
#     NETWORK=192.168.100.0@nafo0@1/192.168.100.0@nafo0@2
#
#     Sun Cluster 3.1 using ipmp
#
#     NETWORK=192.168.100.0@tequila@1/192.168.100.0@sunrise@2
```


例 1-1 Sun Cluster 用の DHCP 構成/登録ファイル (続き)

```
#
RS=
RG=
PORT=
LH=
NETWORK=
HAS_RS=
::::::::::::
util/dhcp_register
::::::::::::
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#

. `dirname $0`/dhcp_config

scrgadm -a -j $RS -g $RG -t SUNW.gds \
-x Start_command="/opt/SUNWscdhc/bin/start_dhcp \
-R $RS -G $RG -N $NETWORK " \
-x Stop_command="/opt/SUNWscdhc/bin/stop_dhcp \
-R $RS -G $RG -N $NETWORK " \
-x Probe_command="/opt/SUNWscdhc/bin/probe_dhcp \
-R $RS -G $RG -N $NETWORK " \
-y Port_list=$PORT/tcp -y Network_resources_used=$LH \
-x Stop_signal=9 \
-y Resource_dependencies=$HAS_RS
#
```

- **Sun Cluster HA for DHCP** データサービス – パッチ 109077-07 (またはそれ以降) と 111302-01 (またはそれ以降) を適用した Solaris 8 7/01 (またはそれ以降) または Solaris 9 が必要です。
- **/etc/inet/dhcpsvc.conf** パラメータ – /etc/inet/dhcpsvc.conf の次のパラメータを設定する必要があります。
 - **DAEMON_ENABLED** はつねに True です。
 - **PATH** は DHCP ネットワークテーブルに対応するクラスタファイルシステムを示します。
 - **RUN_MODE** はつねに SERVER です。
 - **RESOURCE** は SUNWbinfiles または SUNWfiles のどちらかに設定します。
/etc/inet/dhcpsvc.conf の次のパラメータは設定できません。
 - **INTERFACE**

注 - /etc/inet/dhcpsvc.conf が DHCP サービスのホストとなる Sun Cluster 内の全ノードで整合性が保たれているか、または /etc/inet/dhcpsvc.conf がクラスタファイルシステム上のディレクトリ上にリンクされるようにしてください。

注 - DHCP 要求への応答に関しては、DHCP ネットワークテーブル用に SUNWbinfiles を使用して、DHCP が最高のパフォーマンスを発揮するようにしてください。

DHCP のインストールと構成

ここでは DHCP をインストールして構成する手順について説明します。

▼ DHCP のインストールおよび構成方法

次の手順で、DHCP をインストールして構成します。

1. **Solaris CD** から次のパッケージをインストールします。
 - SUNWdhcsu
 - SUNWdhcsb
 - SUNWdhcm
2. **DHCP** クラスタファイルシステムをマウントします。必ず、DHCP ネットワークテーブルに対応するクラスタファイルシステムをマウントしてください。

注 - DHCP ネットワークテーブルでフェイルオーバーファイルシステムを使用する場合は、手動でこのファイルシステムをマウントする必要があります。

3. 必要な **DHCP** パッチをインストールします。インストールしなければならないパッチのリストについては、7 ページの「構成に関する要件」を参照してください。
4. 次のコマンドを実行して **DHCP** を構成します。

```
# /usr/sadm/admin/bin/dhcpmgr
```

- 「DHCP サーバとして構成」を選択します。
- 「テキストファイル」または「バイナリファイル」を選択します。

- DHCP ネットワークテーブルのパスを入力します。
 - ホストレコードの保管に使用するネームサービスを選択します。
 - 「リース期間」とクライアントがリースを更新できるかどうかを選択します。
 - 使用する場合は、このサーバーの DHCP クライアント用 DNS 構成を指定します。
 - IP アドレスを提供するネットワークとネットワークマスクを追加します。
 - 「ネットワークタイプ」として「ローカルエリア (LAN)」を選択します。
 - 使用する場合は、このサーバーの DHCP クライアント用 NIS 構成を指定します。
 - 使用する場合は、このサーバーの DHCP クライアント用 NIS+ 構成を指定します。
 - アドレスとマクロを作成します。
5. `/etc/inet/dhcpsvc.conf` を確認します。次のパラメタが定義されていなければなりません。
- `DAEMON_ENABLED` はつねに `True` です。
 - `PATH` はクラスタファイルシステムを示します。
 - `RUN_MODE` はつねに `SERVER` です。
 - `RESOURCE` は `SUNWbinfiles` または `SUNWfiles` のどちらかに設定します。
6. `/etc/inet/dhcpsvc.conf` の整合性を確認 – DHCP サービスのホストとなる Sun Cluster 内の全ノードにわたって整合性を保つ必要があります。
2 とおりの実現方法があります。
- `/etc/inet/dhcpsvc.conf` を Sun Cluster 内の全ノードにコピーします。
 - 編集済みの `dhcpsvc.conf` をクラスタファイルシステムに移動し、クラスタファイルシステム内の `dhcpsvc.conf` に対して `/etc/inet/dhcpsvc.conf` からシンボリックリンクを作成します。
7. 全ノードで **DHCP** が停止していることを確認します。
- ```
/etc/rc2.d/K21dhcp stop
```
8. 全ノードでブート時の **DHCP** の起動を無効にします。
- ```
# rm /etc/rc3.d/S34dhcp
```

DHCP のインストールと構成の確認

ここでは、インストールと構成を確認する手順について説明します。

▼ DHCP のインストールおよび構成の確認方法

次の手順でインストールと構成を確認します。データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションの可用性が高いかどうかを確認することはできません。

1. `/etc/inet/dhcpsvc.conf` を確認します。
要件に基づいて各パラメタが設定されているかどうかを確認します。
 - `SERVER_MODE`
 - `PATH`
 - `DAEMON_ENABLED`
2. Sun Cluster 内の全ノードにわたって `/etc/inet/dhcpsvc.conf` が矛盾していないかどうかを確認します。
3. ブート時の DHCP の起動が無効になっていることを確認します。

Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール

ここでは Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール手順について説明します。

▼ Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール方法

次の手順で、Sun Cluster HA for DHCP パッケージをインストールします。この作業には、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。この手順では、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービス パッケージをインストールしていない場合を想定しています。

Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for DHCP パッケージをインストールした場合は、13 ページの「Sun Cluster HA for DHCP の登録と構成」へ進んでください。

それ以外の場合は、次の手順で、Sun Cluster HA for DHCP パッケージをインストールします。Sun Cluster HA for DHCP を実行できるすべてのノードで、この作業が必要です。

1. CD-ROM ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
2. オプションを指定しないで `scinstall` ユーティリティを実行します。

scinstall ユーティリティが対話型モードで起動します。

3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。
scinstall ユーティリティにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。
ユーティリティはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。
5. インストールするデータサービスを指定します。
選択したデータサービスが scinstall ユーティリティによって示され、この選択内容の確認が求められます。
6. **scinstall** ユーティリティを終了します。
7. ドライブから **CD** を取り出します。

Sun Cluster HA for DHCP の登録と構成

ここでは Sun Cluster HA for DHCP の構成手順について説明します。

▼ Sun Cluster HA for DHCP の登録および構成方法

次の手順で、Sun Cluster HA for DHCP をフェイルオーバーデータサービスとして構成します。この手順では、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービスパッケージをインストールしている場合を想定しています。

Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for DHCP をインストールしなかった場合は、12 ページの「Sun Cluster HA for DHCP パッケージのインストール方法」へ進んでください。

それ以外の場合は、次の手順で Sun Cluster HA for DHCP データサービスを構成します。

1. **DHCP** のホストとなるクラスタノードの **1** つで、スーパーユーザーになります。
2. **SUNW.gds** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.gds
```

3. **SUNW.HAStoragePlus** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```

4. フェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g DHCP-failover-resource-group
```

5. DHCP ディスク記憶装置に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j DHCP-has-resource \  
-g DHCP-failover-resource-group \  
-t SUNW.HAStoragePlus \  
-x FilesystemMountPoints=DHCP-instance-mount-points
```

6. DHCP 論理ホスト名に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -L -j DHCP-lh-resource \  
-g DHCP-failover-resource-group \  
-l DHCP-logical-hostname
```

7. DHCP ディスク記憶装置と DHCP 論理ホスト名のリソースが組み込まれたフェイルオーバーリソースグループを有効にします。

```
# scswitch -z -g DHCP-failover-resource-group
```

8. DHCP コンポーネントを作成して登録します。

```
# cd /opt/SUNWscdhc/util
```

dhcp_config ファイルを編集し、ファイルの中のコメントの記述に従います。

```
# These parameters can be customized in (key=value) form  
# RS - name of the resource for the application  
# RG - name of the resource group containing RS  
# PORT - name of any port number, as it's ignored  
# LH - name of the LogicalHostname SC resource  
# NETWORK - name of the DHCP Network, however comprised of following  
# <network>@<nafo or nodename>@<node number>  
# HAS_RS - name of the DHCP HAStoragePlus SC resource
```

次に、IPMP が組み込まれた 2 ノード (tequila/sunrise) の Sun Cluster 3.1 に対応する DHCP の例を示します。

```
RS=dhcp-res  
RG=dhcp-rg  
PORT=23  
LH=dhcp-lh-res  
NETWORK=192.168.100.0@tequila@1/192.168.100.0@sunrise@2  
HAS_RS=dhcp-has-res
```

dhcp_config の編集後、リソースを登録する必要があります。

```
# ./dhcp_register
```

9. 各 DHCP リソースを有効にします。

前の手順と同様、DHCP コンポーネントごとにこの手順を繰り返します。

```
# scstat
```

```
# scswitch -e -j DHCP-resource
```

Sun Cluster HA for DHCP のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされて構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

▼ Sun Cluster HA for DHCP のインストールおよび構成の確認方法

次の手順で、Sun Cluster HA for DHCP が正しくインストールされ、構成されているかどうかを確認します。

1. **DHCP** のホストとなるクラスタノードの **1** つで、スーパーユーザーになります。
2. すべての **DHCP** リソースがオンラインになっていることを **scstat** で確認します。

```
# scstat
```

オンラインになっていない DHCP リソースごとに、次のように **scswitch** コマンドを使用します。

```
# scswitch -e -j DHCP-resource
```

3. **scswitch** コマンドを実行し、**DHCP** リソースグループをほかのクラスタノード (*node2* など) に切り替えます。

```
# scswitch -z -g DHCP-failover-resource-group -h node2
```

Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターの概要

この情報は、Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターを理解するうえで役立ちます。ここでは、Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターのプローブアルゴリズムまたは機能について説明し、検証の失敗に関連する条件、メッセージ、回復処理を示します。

障害モニターの概念については、*Sun Cluster Concepts Guide* を参照してください。

リソースプロパティ

Sun Cluster HA for DHCP 障害モニターでは、リソースタイプ `SUNW.gds` と同じリソースプロパティを使用します。使用するリソースプロパティの全リストについては、`SUNW.gds(5)` のマニュアルページを参照してください。

検証アルゴリズムと機能

■ DHCP

- `Thorough_probe_interval` の間、休止します。
- `in.dhcpd` デーモンが引き続き動作していることを確認します。これに失敗すると、プローブにより DHCP リソースを再起動します。
- PNM (Public Network Monitoring) または IPMP (IP Multi Pathing) が DHCP で使用中のネットワークのアクティブインタフェースを変更したかどうかを確認します。これに失敗すると、検証が DHCP リソースを再起動します。

Sun Cluster HA for DHCP のデバッグ

▼ Sun Cluster HA for DHCP のデバッグを有効にする方法

ここでは、Sun Cluster HA for DHCP のデバッグを有効にする方法について説明します。

DHCP コンポーネントの DEBUG ファイルは、`/opt/SUNWscdhc/etc` にあります。

このファイルを使用すると、Sun Cluster 内の特定ノード上にある DHCP リソースに対して、デバッグを有効にできます。Sun Cluster 全体にわたって、DHCP リソースのデバッグを有効にしなければならない場合は、Sun Cluster 内のすべてのノードでこの手順を繰り返す必要があります。

1. `/etc/syslog.conf` を編集します。

`/etc/syslog.conf` を編集し、`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更します。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.notice;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                    operator
#
```


daemon.notice を daemon.debug に変更し、syslogd を再起動します。次に示す grep daemon /etc/syslog.conf コマンドの出力例では、daemon.debug が設定されています。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.debug;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                  operator
#
# pkill -1 syslogd
#
```

2. /opt/SUNWscdhc/etc/config を編集します。

/opt/SUNWscdhc/etc/config を編集し、DEBUG= を DEBUG=ALL または DEBUG= resource に変更します。

```
# cat /opt/SUNWscdhc/etc/config
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# Usage:
#     DEBUG=<RESOURCE_NAME> or ALL
#
DEBUG=ALL
#
```

注 - デバッグを無効にするには、この手順を逆に実行して下さい。
